

平成29年9月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会
 〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内
 TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



鷹山宇一 「追憶」 1950年 キャンバス・油彩

「追憶」

私が生まれた年の二科展出品作品「追憶」はいつ見ても不思議な作品で、いつか父の話を聞かねばならないと思いつつ別れを迎えてしまった。

父の思い出話をしてきたある日、突然母の口から「追憶」の言葉が飛び出てきた。母は、見合いの席で「明日音楽会に行きませんか」と父に誘いを受け、出かけた「日比谷公園」の作品だと言う。不惑の歳に18歳下で、当時は眩しいばかりに美しかった母を見た父は、これが最後の好機と思つた事だろうし、鷹山の作品に魅せられていた母にとっては、憧れの君に出会いすべては夢心地であつたに違いない。

翌日公園内にある焼失前の松本楼で、銀の器に入ったカレ―と麦芽酒が父の前に並び「私にはハムサンドと珈琲を注文してくれたのよ。でも胸が一杯で・・・」と話が続く。

私が不思議と思つたこの作品は、描かれている人々の姿である。白い石段を登るような人がいれば、左に進む人もいる。そして影が右や左に、あるいは下向きにも入っていて光の角度が全く分からない。それどころか、左側は行き止まりの壁のようでありながら人々は左下に降りるが如くに描かれている。

母の遠い記憶を辿れば「藤椅子」が松本楼のテラスに置かれてあつたと言うので、椅子には母に見立てて白薔薇を描いたのであろうか。

エッシャーの「だまし絵」的要素を含みながらも間違いなく父のシニールである。

しかも正面の男女はどちらを向いているのか不明ではあるが、これから進み行く不透明な歳月を二人並んで歩みたいと願う父の望みや、純白な薔薇を永遠に守り抜くと決意した男の力強さを感じられる。

幼なじみの榎哲夫(まき・てつお)博士の厚い友情で、弘前大学病院の院長室に嫁入りしたこの「追憶」。

70年前の戦後間もない昭和22年晩秋、父母の心と心が結ばれて私たち家族の原点ともなったこの「追憶」は、「鷹山」の大切な大切な作品だ。

館長 鷹山 ひばり

平成29年度研修旅行「茨城・千葉美術鑑賞の旅」(6月13日〜15日実施)に参加された会員の20名の方々から一言感想文をお寄せ頂きましたので本号88号と次回89号でご紹介します。

石川みほ・十和田市
ホキ美術館は初めてであり、憧れでありました。写真以上の肌の美を追究した、しかも全て油絵とは驚きでした。食事は、いつもステキでしたが、成田エクセル東急ホテルの夕食の中華料理は抜群で驚きでした。

起田愛子・十和田市
3日間、楽しい旅行が出来たことに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

川村幸子・七戸町
数年ぶりで友の会の鑑賞旅行に参加しました。盛りだくさんの内容で充実の旅でした。笠間日動美術館、ホキ美術館、川村美術館の感動を、これからの生活の力にしたいと思えます。



上 岡倉天心 六角堂を望む
下 六角堂内部

菊地章子・十和田市
いろいろな分野の興味深い絵を見られ、食事もステキで、楽しい3日間を過ごさせて頂きました。又、参加する事を楽しみにしています。



茨城県天心記念五浦美術館

工藤敦子・七戸町
「作品・建築・自然・食」に身も心も癒された二泊三日の旅は終わりました。皆さんのお陰であると感謝、感謝です。ありがとうございました。

工藤喜代子・七戸町
今回の旅行は、国内外の絵画名品

を楽しむことが出来た他に、六角堂借楽園、北大路魯山人の旧宅等の風情あふれる庭園も十分に堪能することが出来ました。そして、それらに増して食事の美味しかったこと。情緒あふれるレストラン、飛行機が飛び交う夜景を見ながらのディナー等々、3日間本当に五感を十分に満足させていただきました。

下山恭美子・十和田市
こんなにも多彩な内容を3日間の貸切バスで効率良く巡る研修旅行が以前にもあっただろうか？戸口から戸口へ案内を受け、素晴らしい整えられた環境の中にある施設での美術鑑賞のひとつとき。

しかし、企画運営する立場にある者の一人として、自分の価値観を中心に手放しで喜んでばかりはいられない。開催時期や経費のこと、目的地や日程の組み方等々、今回参加が叶わなかった会員のご意見やご要望などにも謙虚に耳を傾け、さらには友の会全体の有り方についても良い方向性を模索していきたいと考えている所なので、率直なご意見を賜りたいものである。

小向 慎・十和田市
ゆったり、のんびり、美味しい旅でした。絵も食も6・4位で洋に傾いたみたいで、これがバランスの良さか？と思います。皆さんに感謝いたします。

白石真喜子・東北町
美術館巡り、とても一人では行けない所、素晴らしい作品に出会い、

嬉しく、又、感動しました。食事でも家では食べられないような食事でした。楽しい研修旅行でしたので、又参加したいと思えます。ありがとうございました。



笠間日動美術館

杉沢深雪・南部町
「美術鑑賞の旅・3日間」は、どの美術館もそれぞれに歴史と特徴があり、全てに興味津々。展示作品を欲張って全文読みながら鑑賞するため、他に迷惑をかけるように早足で巡ることに徹する。以前鷹山美術館で見たが、笠間日動のパレット館で多くの画家のパレットに再見し、楽しさも倍増する。これほど多くの写真絵画を一気に鑑賞出来た「ホキ美術館」に大いに感動！矍鑠体とか、ぼかす手法が全くない作品、一点一点に目を見張る貴重なひとときである。最後に美食の旅！？その食事タイムも賑やかに楽しんだことも少し記しておきたい。3日間終始、女子力を感じた旅だった。楽しく満足の旅だった。

矢口高雄の世界
「天翔ける童心」展
Report

9月3日(日)に会期を終了した「矢口高雄の世界 天翔ける童心展」。矢口先生が描き出す、どこか懐かしい日本の風景、登場するキャラクター達はいきいきとした表情、ダイナミックな動きに、ご覧になった皆さんは一緒に冒険をしているような、ワクワクした気持ちになられたのではないでしようか。「懐かしいなあ」という声がたくさん聞こえた展覧会でした。

7/14 (金)
開催式・レセプション

開催式・レセプションには、矢口高雄先生ご本人がご出席してくださいました。



↑テープカットの様子。矢口先生からご挨拶を頂戴しました。

7/15 (土)・8/12 (土)
ギャラリートーク&サイン会

会期中には2度、「ギャラリートーク&サイン会」を開催しました。両日も、矢口先生のファンの方々がたくさん来てくださいました。先生との距離も大変近く、お客様と会話をしながらのなんとも和やかな雰囲気イベントとなりました。



↑なんとその場で、漫画「釣りキチ三平」のキャラクターを描く場面も！皆さんその様子真剣に見つめていました。

←ギャラリートークでは、漫画に対する熱い思いをお話していただきました。



博物館実習レポート

当館では平成29年度2名の実習生を受け入れました。実習を終えての感想をレポートしていただきました。

〈博物館実習を通して〉
弘前学院大学日本語・日本文学科
4年 三浦 恵

今回の実習では、企画展の準備段階から参加させていただき、とても貴重な経験をさせていただきました。鷹山宇一先生のコーナーでは収蔵庫からの運び出しから始まり、ワイヤーを使つての展示、最後に展示する絵を実習生に選ばせていただくなど、内容の濃い体験をさせていただきました。

今回のメインである企画展「北辰の宙 渡辺貞一 生誕百年記念展」中井昌美コレクション」では、配置に迷いながらも、良いバランスの展示ができたと思います。

好きな絵画に囲まれてとても幸せな一週間でした。美術館の皆様、実習中に関わった皆様、至らない点が多々あったと思いますが、優しく接して頂き、ありがとうございました。

〈博物館実習を終えて〉
筑波大学芸術専門学群
4年 成田 香月

一週間丁寧にご指導いただきありがとうございました。展覧会開催の準備からその当日、また、作品の貸し出しの見学など、様々な業務を見学、体験させていただきました。

実際の現場を学生のうちに見る、という経験はなかなかできるものではありません。一つの展覧会を開催するために微力ながらお手伝いさせていただいたことに、とても充実感を覚えております。この美術館を選んでよかった、と心から思っております。

最後に忙しい中、ご指導していただきました、鷹山館長様、遠藤さんを始め、スタッフの皆様、心から感謝申し上げます。七日間、ありがとうございました。



▲(左)三浦さん(右)成田さん
一緒に展示作業を行ったり、パネルの作成を行ってくれたり、一生懸命に取り組んでくれました。ありがとうございました。

平成29年度

鷹山宇一記念美術館アーケード

矢口高雄の世界展

「特別ワークショップ」

ルドウーテ展と同様に、多くの方が見て下さり参加していただけるように、絵馬館で開催致しました。講師は佐伯知美先生です。今回は、矢口先生の代表作「釣りキチ三平」に因んで、魚のモチーフを使ったワークショップです。

矢口高雄展特別ワークショップ1回目

8月19日(土)は「デコパージュでバッグづくり」です。ペーパーナプキンの柄はもちろん魚柄。しかもバッグの色は水をイメージした色です。実は、AIVの「わっち」でもちよつとだけ宣伝させていただきますました。その甲斐あってか、はじめて参加する方が半数以上でした。

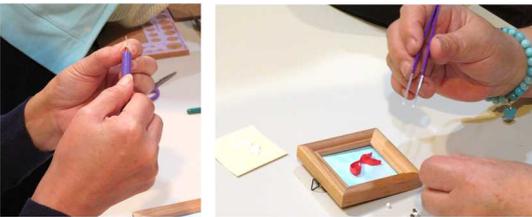


参加してくれた子供たちは意外とシンプルな魚を選んだ事にびっくりしましたが、素敵な作品に仕上がりました。大人の方々は、かわいらしいバッグを作ってお孫さんにプレゼントするとうれしそうに話して張り切っておりました。保育園に通うかわいい参加者もあり、

自分が使うバッグをお母さんと楽しそうに作っていました。又、特殊な糊が乾くのが待ち遠しくてたまらない様子がほほえましく、みんなが、笑顔で見守っていました。

矢口高雄展特別ワークショップ2回目

9月2日(土)は「ペーパーリングで金魚をつくる」です。ペーパーリングとは、細長い紙をくるくる丸めてパーツを作り、それを組み合わせていろんな形に仕上げている。ペーパークラフトです。初めてペーパーリングに参加される方がほとんどでしたので、コツを掴むのも一苦労。



紙の長さで円の大きさが変わるので、一度巻いた紙をわざと広げ、紙の間に均等な空洞をつくるのが難しく、円の大ききつづし方で金魚の形が決まってきます。隣同士、やっている作業を見て、会話が弾みます。自分の金魚はちょっと太っちゃだとか、金魚に見えないという声も聞こえてきま

したが、いかがですか？全て金魚に見えますね。しかも並べたらすぐくワイイではありませんか！先生に並べ方のコツやお洒落に写真を撮るテクニックを聞きながら、最後は撮影会になりました。



年賀状木版画教室開催

開催日：11月25日(土)・12月2日(土)

時間：10時~12時

場所：美術館2階 工房

費用：500円

講師：藤谷芳雄氏

藤谷先生は、日本板画院青森支部長を務めておられます。9月16日(土)には七戸町南公民館で宮沢賢治読書会主催の講演がありました。その中で、藤谷先生が勤務した学校で出会った先生の勧めで版画を始めたこと、宮沢賢治の作品を題材に版を彫ってきたようにひとつのモチーフを追求していくことが大切とお話されました。

藤谷先生のご指導のもと、今年も楽しく年賀状木版画に参加しませんか？昨年、日本板画院の年賀状コンクールに初めて応募し、子供・大人合わせて4名の



入選がありました。「あーとくらぶ」では、年賀状コンクールに挑戦することを目標にこれからも続けていきたいと考えております。皆様のご参加お待ちしております！

おもてなしワークショップ

おもてなしワークショップでは、随時申込により、せんべいやにんくのストラップ作り教室を開催しております。9月は、せんべいストラップづくりが2件ありました。



七戸市立関根中学校の皆さんがせんべいストラップづくりに挑戦です。胡椒の味で、おいしそうなせんべいストラップができました。



七戸男子が女性をもてなし、2日間七戸町内を巡り交流するイベントです。1日目、せんべいストラップづくりの講座を柏葉館を会場に行いました。準備の様子です。



美術館日誌

◆7月◆

- ▼1日(土) ワークショップ
「大人の塗り絵」
講師：佐伯 知美氏
- ▼3日(月) むつ市女性団体連絡協議会
21名来館
- ▼4日(火) 特別展「矢口高雄の世界」展打合せ
(ATV山形氏・館長・遠藤)
- ▼6日(木) 青森県私立学校審議会出席
(館長／青森)
イキイキ健康クラブスマイル
26名来館
- ▼9日(日) ルドゥーテのバラ展最終日
青森難聴者協会28名来館
- ▼10日(月) ルドゥーテ作品搬出
(東京マルイ美術)
- ▼11日(火) 矢口高雄展作品搬入
自動扉改修工事
- ▼12日(水) 矢口高雄展作品展示
明の星短期大学講演
(館長／青森)
- ▼14日(金) 矢口高雄展レセプション
- ▼15日(土) 矢口高雄先生ギャラリー
トーク・サイン会
- ▼16日(日) 七彩会
- ▼18日(火) 渡辺貞一展関連資料借用
(遠藤・對馬／弘前)
- ▼25日(火) わっち生放送打合せ
(ATV山形氏・館長・遠藤・織川)

◆8月◆

- ▼26日(水) 虫歯ポスター審査
(館長／木崎野小学校)
 - ▼1日(火) 開館記念日(七戸町民無料日)
東京出張(遠藤・織川)
 - ▼8日(火) アートプロジェクト円卓会議
(遠藤／七戸支所)
 - ▼9日(水) ATVわっち生放送出演
(遠藤・織川・成田)
 - ▼10日(木) 青森出張(館長)
多田瓊林展協力者
山崎栄作氏通夜出席
(館長)
 - ▼12日(土) 矢口高雄先生ギャラリー
トーク・サイン会
「デコパージュ」
講師：佐伯 知美氏
 - ▼19日(土) ワークショップ
 - ▼20日(日) 七彩会
 - ▼21日(月) 渡辺貞一展関連資料借用
(遠藤・織川・對馬／青森・弘前)
 - ▼24日(木) ATV取材
- ## ◆9月◆
- ▼2日(土) ワークショップ
「ペーパーキリング」
講師：佐伯 知美氏
 - ▼3日(日) 矢口高雄展最終日
 - ▼4日(月) 人気投票抽選
(ATV山形氏・館長)
- 矢口高雄展作品撤去・搬出



▲矢口高雄レセプションテークカット



▲渡辺貞一作品162点を七戸町に寄贈して下さった京都市在住の中井昌美氏



▲来館第1号のお客様(矢口高雄先生と舛甚さん)



▲中井昌美氏によるギャラリートーク

- ▼4日(月) 展示替え休館
展示替え休館
- ▼5日(火) おもてなしワークショップ
むつ市関根中学校13名来館
(織川・江刺家／美術館2階)
- ▼5日(火) 八戸市民美術館出張
(遠藤)
- ▼6日(水) 二科展レセプション出席
東京出張(館長)
- ▼9日(土) 七彩会
街コンワークショップ
「せんべいストラップ」
(織川・江刺家／柏葉館)
- ▼10日(日) 博物館実習2名
七彩会
- ▼15日(金) 渡辺貞一生涯百年記念展
レセプション
- ▼16日(土) 今別町15名来館・視察
渡辺貞一展開催
藤谷芳雄先生講演会
(織川／南公民館)
- ▼21日(木) 県民カレッジ北上学友会会議
(織川／美術館2階)
- ▼22日(金) NHK仙台支局出張(館長)
県美レセプション出席
(遠藤)
- ▼25日(月) 東奥日報打ち合せ(館長)
青森放送前社長長崎昭義氏
お別れ会出席(館長)
- ▼26日(火) 十和田西高等学校69名来館
(講演・解説／館長・遠藤)
- ▼27日(水) 美術館「えき」KYOTO
2名来館
- ▼28日(木) 第17回鷹山賞審査会
(審査委員長 濱田進氏)

—北辰の宙— 渡辺貞一生誕百年展に寄せて II

鷹山宇一記念美術館 研究員 對馬 恵美子

(元青森県立郷土館副学芸課長)

今回は洋画家渡辺貞一の生涯をご紹介しましたので、今回は中井コレクシヨンのなかから代表的な作品を数点選んでご紹介いたします。

貞一は故郷青森をテーマにした作品を生涯にわたって描き続けました。彼の視線は常に、厳しい北の自然と、その中で慎ましく暮らす人々へむけられました。最初荒々しい筆致で描かれていたそれらは、やがて貞一の心の中で再構築され、静寂さに満ちた深淵の世界をあらわすようになります。晩年、人気作家となるの

も、見る者の心をゆさぶる何かを貞一の作品が持っているためではないでしょうか。本展開催中にぜひ会場に足を運んでいただき貞一作品を鑑賞していただければ幸いです。

1 「裸婦」 昭和35年

鉛筆・ホワイト・紙



貞一の絵の非凡な才能をいち早く見抜いた人物が日本画家の西沢赤子(俊蔵)でした。西沢は昭和のはじめころ浦町高等小学校で渡辺貞一の担任を務めていました。西沢は貞一のデッサン力に感動し、貞一少年の何十枚かの水彩画を大切に保存し続け、後に同じ国画会で「れもん」の画家として知られる小館善四郎にこれを見せたところ、小館はその描写に衝撃を受けたと語っています。

この裸婦デッサンは、貞一43歳の時ののですが、幾たびも修正された線の跡に、線の追求に真摯に取り組む貞一の姿勢が窺えます。

2 「川原と風景」

油彩・キャンバス

貞一の代表作に挙げられるのが、川原の風景を描いた作品です。漆黒の闇に浮かぶ月、地面につきさした枝にとまる硬直した鳥は、まるで羅針盤の針のように、飛びたつ気配もなく下を向いています。手前で口元に手をあてている無表情の女性は葉笛を吹いているのでしょうか。葉が震えてだす音のみが川原に響きわたり、より深い静寂さを醸し出します。おそらくここは死と生のはざま、闇に浮かぶ月は死の世界なのでしょう。生と死の淵を何度も覗き見た貞一の心象風景かもしれませ



3 「白い花」 昭和47年

油彩・キャンバス

貞一の創作時間は、大抵、周辺が静まりかえる深夜から朝方だったといえます。制作を終えて寝につくまえに早朝の散歩に出かけ、四季にあわせて折々に咲く草花を摘み取って帰って来たそうです。花の美しさに魅せられた貞一は、多くの花の絵を残しました。



4 「雪国少女」 油彩・板

この作品は釘描画という技法で描かれた作品です。キャンバスに白土を塗り、乾いたら刃物でキズをつけ油絵の具を平面に塗り、その画面を平べったいカネベラで削り取ると線(デッサン)が残る。それに油彩する。あるいは白土にいきなりデッサンする。この方法を釘描(ていびょう)と貞一は名付けました。貞一は高等小学校を卒業後に、彫刻家のもとへ弟子入りさせら

れていて、そのときの経験が活かされていたのかもしれない。東奥美術展では彫刻の部に入選していますから彫刻家の腕もたしかなものがあったのでしよう。鉛描画の時には、「木彫のジカ彫りの精神と技法を活かすようにしている」と述べています。



5「時計台の風景」昭和47年
油彩・キャンバス

貞一は、昭和39年に三ヶ月かけてヨーロッパ各地を巡遊しています。モスクワ、アムステルダム、パリ、マドリッド、トレドなどです。パリとスペインには、それぞれ一ヶ月ほど滞在し毎日のように美術館や画廊を見て歩きました。古今の名画をみて、憧れていた絵がつまらなかつたり、あまり興味のなかつた作家の絵に感動したりと多くの事を学んだ旅だったようです。「もつと日本の画家は自分と対決して勉強しなければと思つた。」と語っています。



6「観音」昭和55年 墨・紙

晩年になり入退院を繰り返した貞一は、水墨画を描くようになります。それは、長年親しんできた油絵具の油の匂いにさえ耐えられないほど衰えた彼が最後の力をふりしぼつて描いたものでした。

もともとデッサン力のある貞一は、昭和54年に中国南部へ旅した時の、中国の風景、寺院、仏像などをテーマにして味わい深い筆致で描きました。



新規会員入会お誘いのお願いと 友の会会員登録更新のお願

平素から会員の皆様には、友の会運営に多大なご理解とご協力をいただき、誠に有り難う御座います。今後とも鷹山宇一記念美術館の応援をよろしくお願ひ申し上げます。友の会では会員の皆様に喜んで頂けるよう研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。尚、更新及び新規入会手続きは、美術館窓口と郵便振替により随時行っておりますので、会員各位のお力添えをお願い致します。

○友の会の事業内容

- ① 県内外美術館研修視察旅行(年2〜3回)
- ② 海外美術館研修旅行
- ③ 美術館作品購入基金への協力
- ④ 鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤ 会報の発行
- ⑥ その他 美術講演会の開催等)

○一般会員

会費

- (個人) 年度会費 3千円
① 無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引

- ② ミュージアムグッズ1割引
- ③ 研修会、講演会への招待、優待
- ④ 他美術館等の視察研修への優待参加
- ⑤ 会報の配布

○特別会員

会費

- (個人・法人) 年度会費 1万円
① 会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで無料入館
② 新規加入の方に画集1冊贈呈

○賛助会員

会費

- (個人・法人) 年度会費 2万円
① 会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館
② 新規加入の方に画集1冊贈呈
③ 特別企画展の都度、招待券を贈呈

◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

★会費についての お知らせ

会費の納入は随時受け付けております。平成29年10月1日〜30年3月31日の期間に新規会員になられた方は、31年3月31日迄の会費となります。

☆ ご意見、ご要望を お寄せ下さい。

- 友の会事業全般について
- 研修旅行等についてのご希望とご意見
- その他

編集後記

★茨城・千葉美術鑑賞の旅に参加された方々からお寄せ頂いた一言感想と鷹山宇一記念美術館のご協力で会報第88号完成。有り難うございます。
★会報の発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。

照井壽一